

◎景気ウォッチャー調査[2021年5月]

2021年5月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を8.6ポイント下回る33.3となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「緊急事態宣言の発出による外出の自粛や休業の影響で、景気はやや悪くなっている。」(百貨店)、「緊急事態宣言の発出以降、来客数が前年から半減、売上も悪化している。」(家電量販店)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を11.3ポイント下回る28.4となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「生産に回復の兆しが見られる。」(輸送用機械器具製造業)、「業種によってばらつきはあるが、自動車部品、輸出用機械等には復調の兆しがある。」(輸送業)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント上回る48.5となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響で、新規求人数の減少が顕著になっている。」(人材派遣会社)、「緊急事態宣言による時短営業や休業要請で飲食関係の求人が大幅に減少している。新型コロナウイルスの終息に向け人材採用をした企業でも、再び人材削減の必要が生じ始めている。」

(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を11.2ポイント下回る35.9となった。

	5月	4月	前月差
合計	33.3	41.9	-8.6
家計動向関連	28.4	39.7	-11.3
企業動向関連	48.5	47.0	1.5
雇用関連(参考値)	35.9	47.1	-11.2

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を6.3ポイント上回る47.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスのワクチン接種が広がり、3か月後には、客がかなり本来の消費に向き合える状態に戻ってくる。」(通信会社)、「新型コロナウイルスのワクチン接種が進めば、景気は徐々に回復してくる。」(都市型ホテル)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.8ポイント上回る45.5となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「生産が徐々に回復しており、今後、景気は良くなる。」(輸送用機械器具製造業)、「新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、経済全体も一定期間は好転する。」(化学工業)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を9.1ポイント上回る51.5となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「緊急事態宣言が解除されれば、事業を正常化する動きが加速する。」(人材派遣会社)、「新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、緊急事態宣言が解除され、予定どおり東京オリンピック・パラリンピックが開催されれば、人々の解放感や開催の経済効果で、景気は浮上する。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.3ポイント上回る48.4となった。

	5月	4月	前月差
合計	47.0	40.7	6.3
家計動向関連	45.5	39.7	5.8
企業動向関連	51.5	42.4	9.1
雇用関連(参考値)	48.4	44.1	4.3